

Hakone Highway Improvement.



(2) 第一號線國道箱根の改修工事が終つて自働車が容易に交通してをる景、右は早川左は、小田原電鐵線路

(1) Scene of Hakone Highway after Improvement.

## 箱根の國道改修工事

東京市から伊勢大廟に通ずる國道を第一號線と稱されてをる、此一號線中の神奈川縣足柄下郡湯本村旭橋から温泉村宮の下迄の延長3,537間の復舊改修工事を示すものである。

大正十二年九月一日の大地震は箱根附近最も被害甚大で、箱根の舊道は殆んど全部崩壊した、道路が全滅した爲めに奥地の住民に物資供給が絶える様になつたので、災後第一着に大急ぎで馬力が通ずる丈の應急工事をした、而して其後を改修工事に着手して一ヶ年半の日を経て大正十四年六月完全に3,537間の道路改修工事終り自働車を容易に通ずる迄になつた。

改修の程度は舊道が甚しきは七分一の勾配なきであつたのを十五分一迄に切下げ、全線平均三十分一位の勾配にして、道路幅は舊道が25間であつたのを4間に擴けた。カーブのヶ所は5間乃至7間幅にして自働車の交通

を安全にした。

工法は殆んど岩盤切取り作業であつたが、鑿岩は全部手掘で爆破した、鑿岩機なきの設備が出来なかつたの、手掘なら同時に多數のヶ所に仕事に掛れるの便があつた故である  
遊覽地たる故に山林の自然を成るべく害さぬ程度に山地の切崩し等は出来丈け最少限度にした、それ故時に切取面の輕岩の處は土留石垣を施した、一方の谷に臨む方は路面より甚しく深いので石垣等は施工せず自然の傾斜を利用した。

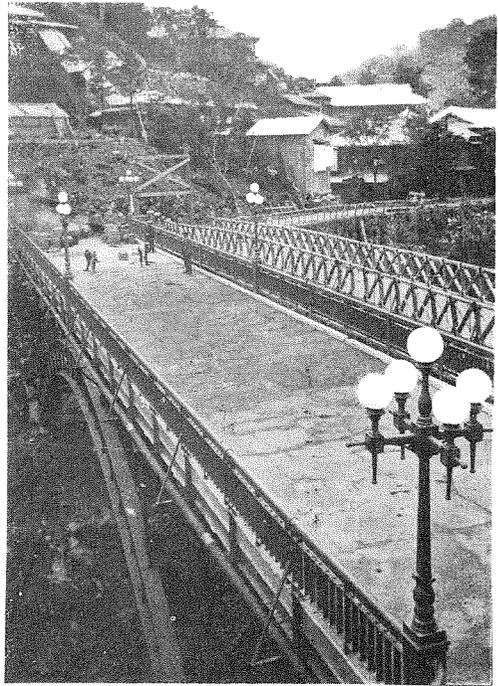
工費は橋梁三ヶ所を含み約61萬圓で、山間の地方道路工事は今この處唯一のものであらう。

設計は神奈川縣土木課、工事主任は神奈川縣小田原土木出張所長、三宅靜太郎氏、工事請負は今井定吉、鈴木新三、田中留吉、田中捨吉氏等である。



(2) 同上、大平臺、(宮の下と湯本の中央) 改修工事竣工後の景  
 (2) The Same Between Miyanoshita and Yumoto.

(3) 同上改修工事竣工後の景、右方早川に架せるは小田原電鐵の構橋で道路改修前は平面交叉であつた、今は道路上をガードにて新に連絡してをる。此邊舊路面より15尺位も切下げて勾配を緩にした。  
 (3) Another View.



(4) Yachiyo Bridge near Hakons.

(4) 八千代橋が橋面アスハルト舗装中の景  
 小田原から箱根を通り御殿場に至る國道特二號線中にある。  
 此の道路は宮の下から約3里4丁の延長で3間幅に擴張した。八千代橋は工費3萬3千圓でメタリック構拱式、長21間、幅3間。  
 早川は此邊で震害のため深100尺のものが70尺に埋められたが尙ほ足場は用ひなかつた。設計は神奈川縣土木課、工事施工は大阪の日本橋梁株式會社である。